

4. キーワードを活用した論述

(1) 「書くこと」を重視する表現活動

「言語活動の充実に関する指導事例集」(平成24年文部科学省)は、調べたことや考えたことを整理・工夫して、生徒がお互いに伝え合うことを求めています。その際に重要になるのが、調べたことや考えたことを文章に「書くこと」です。なぜなら、文章に書き表すことで、伝えようとしている事実が正確であるかどうか、自分の考えに論理的な整合性が認められるかどうか、表現が適切かどうかを視覚的に確認し、修正できるからです。

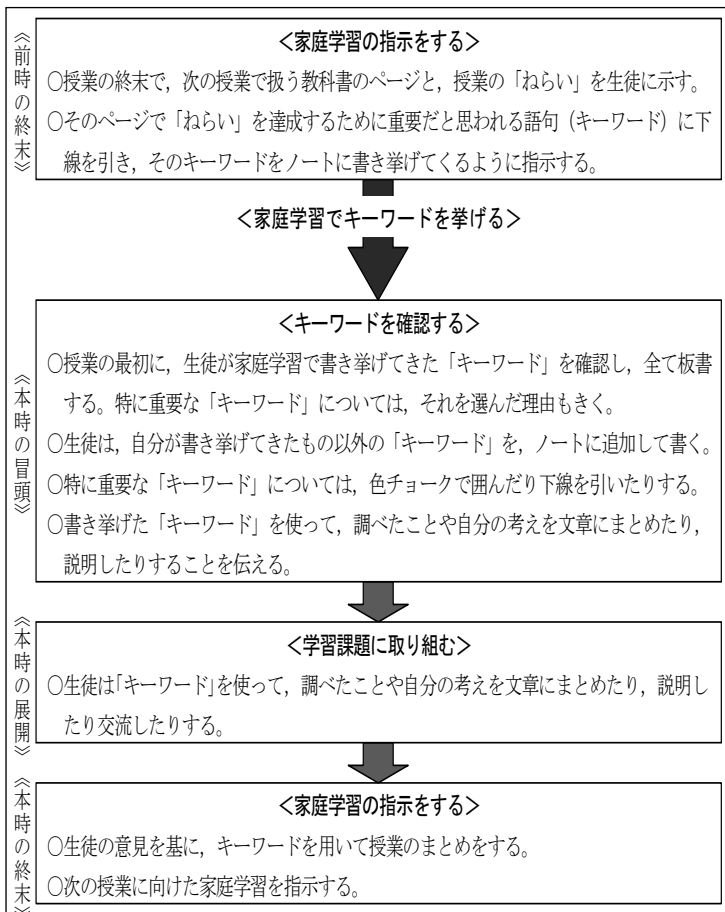
また、文章化する内容は、教科書の本文をそのまま抜き出すのではなく、社会的事象に対する理解や考えを、自分なりの言葉にして表現することが大切です。自分なりの文章で表現された学習内容は、十分な理解を伴っており、思考が深まったことを示していると考えられるからです。

(2) キーワードの活用

「書くこと」を重視する表現活動を指導する上で重要なのが、文章を書くことに対する生徒の苦手意識を払拭することです。この苦手意識は、「何を書いてよいのかわからない」「どのように表現すればよいかわからない」というところに起因していると考えられます。

そこで、その時間に習得すべき基礎的・基本的な知識を教科書から読み取ってキーワードとして挙げ、それを用いて調べたことや考えたことを文章にまとめるという方法を考えました。重要なポイントは、次の四つです。

<キーワード活用の手順>



単元構造図を配る

キーワードは、その時間のねらいに沿って選ぶ必要があります。そこで、課題解決学習に取り組む前に、あらかじめ単元構造図を生徒に配布し、各単位時間のねらいを示しておきます。

家庭学習で挙げてくる

キーワードを活用するためには、その時間の冒頭で示す必要があります。しかしキーワードを読み取る時間には、個人差があります。そこで十分な時間を確保するため、読み取りは家庭学習とします。

全体で確認する

家庭学習で挙げたキーワードは、授業の冒頭において全体で確認します。そうすることでスタートラインがそろい、全員が同じ条件で授業に取り組むことができます。

自分で選ぶ

キーワードは複数挙げたものの中から、自分が必要だと思うものを選んで活用します。これが自分なりの表現につながります。

(3) 論述の評価

ここでは、「論述する」ということを、「ステップ3で設定する価値判断・意思決定を求める学習課題に対して、自分の考えを文章に書き表すこと」とします。学習課題について「どのように考え」「どのように判断し」「どのように表現したか」という「思考・判断・表現」の観点での評価となります。論述を評価する際のポイントは、次の三つです。

評価のポイント1：多面的・多角的な思考

多面的・多角的に考察するとは、複数の側面や立場から考えるということです。つまり、論述の中で複数の事例を挙げて説明していることが必要になります。

評価のポイント2：公正な判断

公正に判断するとは、いろいろな立場によって様々な意見があることを理解した上で、意見を聞いた者の多くが納得できるような、合理的な判断をしているということです。ステップ3で設定する学習課題には、一つの決まった正解が用意されてはいません。重要なのは、結果が正しいかどうかではなく、確かな根拠を示して自分の考えを説明できているかどうかです。根拠がどの資料のどこにあるのか、それは本当に正確なものかといったことが問われます。その点から、根拠はそれまでの学習で学んだ内容や用いた資料であることが望ましいと考えます。

評価のポイント3：適切な表現

適切に表現するとは、説得力のある論述をするということです。説得力のある論述にするためには、主張が明確であり、その主張と根拠が正しく関連付けられていることが必要です。ただし、現実の問題については「AかBか」というように割り切って考えると、無理が生じる場合が少なくありません。異なった価値観や利害の違いがあって対立するようなときは、それぞれの立場が成り立つように、すり合わせをすることも重要です。そのためには、留保条件（「ただし～の場合、…である」）を付けることで現実に即した判断となり、説得力のある論述になります。

論述の評価例

第1学年地理的分野「アジア州」(6/6)

追究 ～身近なものからみたアジア～

<学習課題>

「どうすれば、日本とアジアの国々が協力して、経済発展していくことができるのでしょうか。」



<論述例>

日本の企業が中国やタイに工場を建て、賃金の安い現地の人々を労働力として活用することで、工業製品の生産額をおさえて利潤をあげ、日本の経済発展につなげることができる。また、現地の人々が収入を得ることもでき、更には日本の高い技術を生かすことで、その国の工業の発展にもつながると考える。

[留保条件]

ただし日本国内の生産工場が減少した場合に、その対策をとることを前提に考える

*評価のポイント1：多面的・多角的な思考

日本の立場と、中国、タイなど現地の国の立場で、工業の発展について考えることができている。

*評価のポイント2：公正な判断

教科書の資料である賃金格差のグラフや、既習事項である「日本の高い技術」という知識を根拠として説明できている。

*評価のポイント3：適切な表現

「安い労働力を活用することで利潤をあげる」「日本の高い技術を生かすことで工業の発展につなげる」というように、主張と根拠が正しく結び付いている。